

山口県小学校長会報

発行所
山口県小学校長会
代表者 藤田辰夫
校長会事務局
山口市大手町2-18
☎ 083-925-2919
FAX 083-925-6776
印刷所
大村印刷株式会社

平成二十五年度を振り返って



山口県小学校長会 副会長 **山本 晃久**

一 はじめに

知識基盤社会やグローバル化が進む中、確かな学力や豊かな心、健やかな体の調和を重視し「生きる力」を育む教育の実現を目指し、平成二十五年度山口県小学校長会がスタートした。

今年度は、藤田辰夫新会長のもとでの、十五支部、三百十四校の船出であった。昨年度と比べ四校の減少である。

五月に開催された第六十五回総会では、「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を新たな研修主題とし、子ども一人一人が目標を明確にし、互いに切磋琢磨しながら学び、自ら考え、身に付けた知恵を発揮して新しい知を創造し、人間性豊かな未来社会へ向かって夢や希望を現実のものにする力を育むために探求すべき校長の責務を共通理解することができた。

また、本会において、平成二十七年
度本県を会場に開催される第六十七回

全連小研究協議会の実現に向け、県小

学校長会会員の総力を結集して取り組むべく、実質的な諸準備に取りかかることも理解いただけたと思っている。

さらに、本年度理事会における情報交換の基本テーマを「先見性のある学校経営」、年間テーマを「学校の主体性を高める校長のリーダーシップ」とし、支部の校長先生方の経営力の向上に寄与できるよう取り組んできた。

理事会や小学校長会の活動方針から今年度の活動における重点を振り返ってみたい。

二 教職員の資質能力の向上

人材育成とつながり力

今年度、会報七月五日号において、藤田会長から、学校内での若手職員からベテラン職員までの縦のつながり力と校長同士の横のつながり力を高めることによって、教職員の資質能力の向上を図ることが示された。

定年退職者が年々増加し、若手教員の大量採用が始まる昨今の学校現場において、それぞれのキャリアステージにある職員が、自らの立場を自覚し、ステージに応じた資質能力を主体的に高めながら、これを生かして人材育成を図る取組が求められている。

子どもが地域の人や文化、自然の中で体験的に学ぶことは、子どもが「生きる力」を身に付けるための効果的な手法であることを職員皆で理解し合い、地域の人材や機関と連携しこれを効果的に生かすつながり力も、今後強化しなければならぬ。

三 新たな課題

インターネットによる

トラブルの防止

「昔は、わざわざ意識しなくても、自然な中で、先輩が後輩を指導したり導いたりする場があり、若手教員は先輩の後ろ姿を見て育つ姿勢があった。」とベテランの教職員はよく言う。そして、そのような環境の中で育ったベテラン教員は、やはり自分が若かったころの先輩の取組をお手本にしようとする。

携帯電話、スマートフォン、パソコンはおろか、現在ではゲーム機やミュージックプレーヤーを使って子どもが自由自在にインターネットに接続できる昨今、むしろ進化の後追いをしているのが学校職員と保護者かもしれない。そのような中で子どもがトラブルに巻き込まれたり被害に遭ったりするリスクは高まりつつある。

しかし、このことを語る時、実は今の若い教員が昔の若い教員と違うこと、そして、昔と今では、子どもも家庭も違うことを忘れてしまっていることが多い。

この事態に危機感を抱き、県小学校長会理事会において講師を招き研修を行った。

校長は、若手教員の育成のみではなく、それぞれのキャリアステージにおける資質の向上とお互いのつながり力が、学校運営の質の向上や、子どもの学力の向上、豊かな心の育成等に結びつくことを、教職員に対しても各学校の教育実践を通して体験的に学ばせていきたいものである。

インターネットの子どもの使用状況やトラブル、被害の実態等については、各支部ごとに復伝があらうかと思うが、校長としてこれらを深刻な課題としてとらえ、解決に向けて地域、保護者とともに具体的な方策を掲げ展開を考えなくてはならない。

さらに、本年度新たなつながり力の形として、「地域協育ネット」の構築と実践が求められ始めた。

専門性が高い課題であることから、今後一層の研修と、取組に関する校長間の積極的な情報交換が大切となる。